



# 本日は最悪です。

〈兵庫県〉 戸間有里 49歳

私は、訪問看護師です。「こんにちは、Yさん今日の調子はいかがですか?」と問い掛けると、Yさんは必ず「最悪です」とニコリ笑って返答されます。どんなに体調が悪いのかと心配になりますが、Yさんにとって「最悪」と言えるのは「調子がない」ということなのです。

Yさんは60歳でも臍下血腫で倒れ、脳の高次機能障害があり、不全まひもあって車いす生活を余儀なくされています。脳の障害は複雑で他人にはなかなか理解が難しいです。右脳の機能障害はさほどなく、記憶力や集中力は高く、名前を覚えることや歌、しりとりなどは問題なくこなせます。一方で、気持ちや感情を表現することは大変苦手で、「痛い」「う

れしい」「嫌」などの表現がうまくできません。

以前のYさんは社交家で良妻賢母だったそうです。散歩に出掛けると「Yさん、お元気ですか?」とたくさんのお友達に声を掛けられます。その際Yさんは話したいことがたくさんあるのだと思いますが、何も言えず別れ際に「あほ」「勝手にどうぞ」と心には思っていない言葉が口から出てしまうことばかりでした。自分の気持ちを表現できず、悲しそうなYさんの代わりに「さようなら」と私が返答していました。

私とYさんの関わりも4年が過ぎ、Yさんの記憶力の良さが秀でてきました。研修などでほかの看護師と同行した際に紹介すると、その看護師

のフルネームを次の週も次の月でもはっきり言えるのです。「Yさん、すごいね」と言うのと何ともうれしそうな、照れくさそうな表情のYさん。そして先日、訪問から帰る際「さようなら」と声を掛けると、いつもなら無言のYさんが「ありがとうございました」とにんまり笑顔。「すごい、いつも思っていたことが言えたのね」と言うと、涙をためたYさんがほほ笑んでいました。私も涙があふれました。忘れられない瞬間です。こんな瞬間に出会えることは最高です。訪問看護はいいもんです。

